

幼児期は

遊びが学び!

～夢中になって遊ぶ中に、
たくさんの学びがあります～

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであると言われ、幼稚園・保育所・認定こども園では、「遊び」を大切にした教育・保育を行っています。

幼児期の子供たちは、自発的な活動としての「遊び」や生活を通して、人やものに関わり言葉を豊かにする、自然の美しさや不思議さなどに気付く、生活に必要な知識や技能を身に付けるなど「生きる力」の基礎を学んでいます。

本リーフレットでは、保護者の方々に、幼児期の教育の重要性や本来あるべき「遊びや生活を通して総合的に学ぶ幼児期の教育」の姿を紹介します。家庭や地域と園・所が協力し、子供の健やかな成長を支えましょう。

幼稚園・保育所・認定こども園では、これからの時代に必要な資質・能力を育むことが期待されています。「遊び」を通して、子供が学ぶ楽しさを知り、積極的に物事に関わろうとすることは、小学校以降の学習意欲や、社会に出てからも自ら考え進んで物事を解決する力につながります。

幼児教育において育みたい資質・能力の **3つの柱**

- ◆ 知識及び技能の基礎
- ◆ 思考力・判断力・表現力などの基礎
- ◆ 学びに向かう力、人間性など



*遊びを通して一体的に育みます

育みたい資質・能力の **3つの柱** を踏まえ、
具体的な姿として 10項目が示されました。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

● 健康な心と体

自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

● 自立心

自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

● 協同性

共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりしてやり遂げるようになる。

● 道徳性・規範意識の芽生え

してよいことや悪いことが分かり、相手の立場に立ち行動するようになる。自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

● 社会生活との関わり

家族を大切にすることや地域の人と触れ合う中で、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報を役立て活動することや公共施設を利用して、社会とのつながりなどを意識するようになる。

● 思考力の芽生え

物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、多様な関わりを楽しむようになる。新しい考えを生み出す喜びを味わい、自分の考えをよりよいものにするようになる。

● 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、好奇心や探究心をもつようになる。身近な動植物を大切にす
る気持ちをもって関わるようになる。

● 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しみ、自らの必要感に基づきこれらを活用し、
興味や関心、感覚をもつようになる。

● 言葉による伝え合い

経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝
え合いを楽しむようになる。

● 豊かな感性と表現

感じたことや考えたことを自分で表現し、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

*「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の一部を記載



*一人一人の発達の特성에応じて育っていくもので、到達すべき目標ではありません。

主体的に学ぶ 「遊びを通した学び」



「赤と青の水を流すと次は何色になるかな」



「板の傾きを変えると、転がり方が変わるよ」

一つの遊びには、
いくつもの「学びの芽」
があります



思考力の芽生え

「ふしぎだな」「おもしろいな」と、何度も試して遊ぶ中で、新しい発見があったり物事の法則性に気付いたりします。子供たちの好奇心や探究心を引き出すことが大切で、思考力の芽生えは、小学校の教科等の学習に興味・関心をもって関わる姿につながります。

「上をまげて屋根にしよう」
「ぼくが貼るから、
屋根を持っていて」
「力いっぱい持っているよ」



「ここを入口にしよう」
「ぼく、こっちから切るから」
「じゃあ、ぼく、反対側から切るよ」
「大きな窓もつくりたいね」



言葉による伝え合い

自分の気持ちや思いを伝え、保育者や友達が話を聞いてくれる中で、言葉のやり取りの楽しさを感じ、それらを通して、相手の話を聞いて理解したり共感したりするようになっていきます。



自然との関わり・生命尊重

自然の事物や現象に関心を持ち、動植物に親しむ中で、命あるものを大切にする気持ちを育むことにつながります。

「オタマジャクシがいるよ」
「ゼリーみたいな黒いものもあるよ」
「これは何？」
「卵？初めて見た」
「園で飼ってみようよ」



どのようなことを学んでいるの？

協同性

共通の目的に向けて、自分の力を発揮しながら友達と協力し、様々な意見を交わす中で、みんなでやり遂げた喜びや充実感を味わっています。



「お花屋さんの看板をつくろう」
「値段もかこうよ」

「遠足、楽しかったね」
「ぼくたちも、遊園地をつくろうよ」
「マジックで、道をかくよ」
「ウサギを画用紙で切ってつくるよ」



豊かな感性と表現

子供一人一人が、自分の思いをのびのびと表現することを楽しむ経験は、小学校の学習で、感性を働かせ表現することを楽しむ姿につながります。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

子供たちは遊びの中で、書きたい、伝えたい必要感から文字を使っています。文字を学ぶには、子供の発達に応じた適切な時期があり、小学校のような教育方法が望ましいとは限りません。幼児期には遊びや活動を通して体験していくことが重要です。

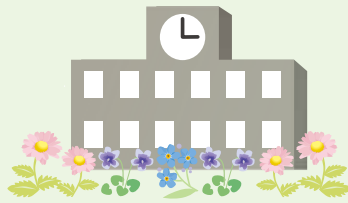
自立心

うまくいかなくても、あきらめずに繰り返し挑戦し、達成感を味わう経験が大切です。

保育者は、生活の中で見つけたおもしろいこと、楽しいこと、発見したこと等、子供が何に興味をもっているのかをよく見ています。子供たちと一緒に遊んだり環境を整えたりしながら、子供の学びを支えています

「今日は、5回跳ぶよ」
「もう少し早く回してみたら」
「足を高く上げてみて」
「ヤッター！4回跳べた」
「もう少し練習してみるよ」





小学校教育

遊びを通して育まれた
様々な力が、小学校の教科
等の学習につながるよう、
授業の工夫をしています

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- | | |
|----------------|----------------------------|
| ① 健康な心と体 | ⑥ 思考力の芽生え |
| ② 自立心 | ⑦ 自然との関わり・生命尊重 |
| ③ 協同性 | ⑧ 数量や図形、標識や文字など
への関心・感覚 |
| ④ 道徳性・規範意識の芽生え | ⑨ 言葉による伝え合い |
| ⑤ 社会生活との関わり | ⑩ 豊かな感性と表現 |



幼児教育と小学校教育で共有



子供の興味・関心に基づき
「知りたい」「してみたい」と
いう思いを大切に保育を
展開しています

幼児教育

幼稚園・保育所・認定こども園等



「遊びを通じた学び」から教科等の学習へ

生活や遊びの中での学び(家庭編)



幼稚園・保育所・認定こども園では、子供たちが友達と関わりながら夢中になって遊ぶことができる環境づくりをしています。家庭でも、遊びや生活の中で、学びにつながる場面がたくさんあります。

かるた遊びのようなルールのある遊びを家族で楽しみながら、順番を守ることや負けた悔しさを味わう経験を大切にしましょう。ルールを守ること、気持ちよく楽しく遊べることを考えられるような関わりをしましょう。



兄弟姉妹や友達と遊ぶ中で、いざこざやうまくいかないことを乗り越える体験を重ね、他の人の気持ちに触れ、きまりの必要性や自分の気持ちを調整する経験を大切にしましょう。

お手伝い等、子供がすることに対し、温かく見守ったり、待ったりすることが大切です。また「がんばったね」「助かったよ」と感謝の気持ちを伝え、人の役に立つうれしさや満足感を得られるようにすることも大切で、そのことが「自己肯定感(自分を好きだと感じる気持ち)」の育成につながります。

花の水やり 洗濯物の片付け 食事の準備等、家族の一員として、その子にあった仕事(お手伝い)を決め、任せてみましょう。最初はうまくできないことや、時間がかかることもあるでしょうが、自分のことは自分ですることや子供の「やりたい」気持ちを大事にしましょう。



公園での砂場遊び 野原での虫とり 風を感じて遊ぶ 虫の飼育・観察等、子供と一緒に身の回りにある四季折々の自然(木 花 土 砂 水 生き物等)に触れて遊びましょう。

身の回りには、豊かな学びの要素がたくさんあります。好きなものに関わり、子供が気付いたり喜んだりする姿に共感する関わりをしましょう。



幼児期は **遊びが学び!** 発行:2020(令和2)年4月

〒640-8585 和歌山市小松原通1丁目1番地
和歌山県教育庁学校教育局義務教育課

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

